

全国理事会に代わるところ報告

(目次)

| | |
|---|-------|
| 1 会長あいさつ | p2 |
| 2 全国大会について | |
| (1) 平成28年度 北信越ブロック石川大会について (石川大会運営委員会からの報告) 及び大会アンケート集計報告 (別添資料1) | p3 |
| (2) 平成28年度 関東ブロック埼玉大会について (埼玉大会事務局からの報告) | p3 |
| (3) 平成29年度 東海ブロック岐阜大会について (岐阜大会事務局からの報告) | p3 |
| 3. 企画運営部関係 | p3 |
| (1) 研究代表者会議(研代会)の運営について | |
| (2) 石川大会アンケートについて | |
| 4. 研究部関係 | p4 |
| (1) 「研究紀要」と掲載論文について | |
| (2) 「大学入試センター試験の問題に関するアンケートのお願い」 | |
| 5. 全国大会の課題についてのいくつかの提案・・・臨時部長会 | p4-6 |
| 6. その他 | p6 |
| 別添資料等 | |
| 別添資料 | |
| (別添資料 1) 研究代表者会議 (研代会) の運営について (仮・変更予定あり) | p 6-7 |
| (別添資料 2) 大学入試センター試験の問題に関するアンケートのお願い | p 8 |

別添ファイル1 石川大会アンケート (石川大会運営委員会)

別添ファイル2 大学入試センター試験の問題に関するアンケート

別添ファイル3 大学入試センター試験の問題に関するアンケート集約用紙

参考ファイル4 埼玉大会概要(夏の大会で配布されたもの・現在検討中)

参考ファイル5 平成28年度予定表

1 会長あいさつ

都立科学技術高等学校長 赤石 定治

都立科学技術高校の赤石です。本年夏の石川大会は、石川県立大聖寺高等学校長鈴木一恵大会運営委員長、石川県立加賀高等学校長多井伸明運営副委員長、石川県立金沢西高等学校副校長諸角敏彦運営副委員長、石川県立金沢桜丘高等学校田口雅範事務局長を始め、北信越理化学協会及び石川県高等学校教育研究会理化部会の先生方のお力で、盛大に充実した内容で開催することができました。心より感謝申し上げます。更には、文部科学省主任視学官清原洋一先生、石川県教育委員会教育次長竹中功先生、野々市市教育長堂坂雅光氏はじめご来賓の先生方に大変お世話になりました。また、会場をお貸しいただいた金沢工業大学の学長大澤敏先生、ご講演いただきました金沢工業大学革新複合材料研究開発センター所長の鶴沢潔教授にも大変お世話になりました。ありがとうございました。お名前を上げさせていただき皆様にご報告させていただきます。そして、来年平成29年度の総会及び全国理科教育大会は、関東ブロックの埼玉大会となります。8月8日（火）から8月10日（木）の3日間、ウェスタ川越及び川越市立川越高等学校で開催されます。多くの先生方が参加されますようご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

理振予算について、昨年度平成27年度の理科教育設備整備費等補助金（理振予算）は20.8億円でしたが、初回の応募総額は16.2億円と約4.8億円も予算を残し、第二次応募も合計1億円も満たせず、結果執行額は17.2億円と約3.6億円の予算残額を発生させてしまいました。観察・実験を重視した理科教育を実現させる環境を整備する予算でありながら、予算は必要ないと受け取られかねない結果です。しかし、今年度平成28年度の当初予算額は17.8億円と昨年度の約1割減となりましたが、各校の予算申請と各教育委員会への働きかけの結果、初回の応募総額は17.8億円となり、予算額と申請額が同額となりました。さらに、今年度補正予算額が3.4億円計上され、現在補正予算の募集が通知されています。このような状況を受け、来年度平成29年度概算要求額は20.8億円と一昨年の理振予算額を同額になりました。とは言っても、まだまだ理科設備の環境は十分とは言えない状況です。引き続き、観察・実験を重視した理科教育を実現させる環境を整備するため、各校でも理振備品や理振台帳の整備と各教育委員会への働きかけをお願いいたします。また、日本理科教育振興協会では、啓発パンフの作成、都道府県教育委員会とタイアップした研修会、啓発訪問説明、理振・台帳説明会の開催など、理科予算について様々な活動をしています。この場をお借りしご報告させていただきます。

科学の話題について、自然科学3分野（生理学・医学、物理学、化学）での日本のノーベル賞受賞者は、2016年の今年、生理学・医学賞を「細胞の環境適応システム、オートファジーの分子機構と生理学的意義の解明」で大隅良典氏（東京工業大学科学技術創成研究院栄誉教授）が受賞されました。読売新聞調査研究本部主任研究員芝田裕一氏のYOMIURI ONLINE深読みチャンネル「日本人は独創的—大隅さんノーベル賞単独受賞の訳」に、「ノーベルの遺言には、物理学賞は「最も重要な発見または発明をした人に」、化学賞は「最も重要な発見または改良をした人に」、生理学・医学賞は「最も重要な発見をした人に」と書かれている。」と、自然科学3賞の授賞の「条件」の違いから、ノーベル生理学・医学賞の日本人受賞者が、利根川氏から山中氏までの25年間出なかった理由として、「改良」が得意と言われてきた日本人にとって、生理学・医学賞の掲げる「発見」という条件が高い壁となっていたのではないかと論述しています。また、東工大ニュースにある大隅栄誉教授の記者会見冒頭の受賞コメントには「私は自分の知的な興味に基づいて、生命の基本単位である細胞がいかに動的な存在であるかということに興味を持って、酵母という小さい細胞に長年いくつかの問いをしてまいりました。私は人がやらないことをやろうという思いから、酵母の液胞の研究を始めました。一つだけ強調しておきたいのは、私がこの研究を始めた時に、オートファジーが必ずがんにつながる、人間寿命の問題につながると確信して始めたわけではありません。基礎研究はそういう風に展開していくものだとぜひ理解していただきたいと思います。基礎科学の重要性をもう一度強調しておきたいと思っています。」と基礎研究・基礎科学の重要性を述べられています。そのためには、面白いから研究をやる、リスクなことでも取り組む、こういった人材の育成はもちろんのこと、それ以上に継続して基礎科学を研究することのできる環境を整備することが重要ではないでしょうか。

理科教育について、次世代人材育成事業として、将来にわたり、日本が科学技術で世界をリードしていくためには、時代を担う才能豊かな子ども達を継続的、体系的に育成していくことが必要とあります。興味関心を喚起して裾野を拡大しながら、将来のグローバルリーダーとなるトップ人材を育成するため、科学部活動の推進や教員の研究指導力の向上、さらに、科学技術コンテストの推進やGSH、SSHの先進的な実践などの様々事業が取組まれています。我々理科教員は、これら先進的な取組事例を参考に、研究会を活用し、協働して実践研究を深める必要があります。まずは、毎日毎日の授業を大切に実践して理科教育を充実させ、全ての子ども達の能力を伸ばし可能性を開花させるための教育に発展させていきましょう。日本理化学協会としては、せっかく充実しつつある理科教育を後退させないため、調査部や教育課程委員会などの研究を進めるとともに、理科教育関係団体や経済団体などとも力を結集して、子供たちに研究することの楽しさや素晴らしさを体験させ、理科の「好き」な子供を育てる理科教育の更なる充実と振興に取り組んでいきます。

2 全国大会について

(1) 平成28年度 石川大会報告(石川大会事務局からの報告)

石川大会は『確かな未来を担う理科教育～探究する力を育むために～』をテーマで、金沢工業大学扇が丘キャンパスを会場とし、平成28年8月8日(月)～10日(水)の期間で開催いたしました。協会役員をはじめ、全国理科教育関係者の皆様のご支援、ご協力により、500名を超える参加者を迎えて無事終了することができました。心より感謝申し上げます。アンケート集計結果では、「石川大会に参加してよかったと思う。」「研究発表の内容は興味深かった。」「研究発表論文(資料)集は良くまとまっており、見やすかった。」の問いかけに対して「よくあてはまる」、「まああてはまる」と回答した方の割合が高く、いずれも97%を超えました。(別紙参照)これらの結果より、参加いただいた皆様は、石川大会でそれぞれの視点で理科教育に関して造詣を深められ、得たことを今後の教育活動に活かしていられるものと確信しております。

なお、会誌第2号と大会収支決算の進捗状況は、以下の通りです。

- ① 会誌第2号については、来年1月発送を目途に役割分担しながら作業を進めています。
- ② 大会収支決算は、会誌第2号関係の費用の支出後に確定し、2月の全国理事会で報告する予定にしております。

(2) 平成29年度 埼玉大会報告(埼玉大会事務局からの報告)

来年度の全国理科教育大会第88回日本理化学協会総会は、「未来を拓く理科教育～主体的・協働的学びの創造～」をテーマとして、平成29年8月8日(火)～10日(木)の日程で埼玉県川越市のウェスタ川越(川越市新宿町1丁目17番地1)及び川越市立川越高等学校(川越市旭町2丁目3番地7)を会場に開催します。現在、日本理化学協会と協議を重ねながら準備を進めており、記念講演は、ノーベル物理学賞を受賞された東京大学宇宙線研究所長であられる梶田隆章教授にお願いしております(調整中)。梶田先生は、ここ埼玉県東松山市のご出身であり、埼玉県立川越高等学校を卒業され埼玉大学に学ばれた埼玉ゆかりの東京大学特別荣誉教授でいらっしゃいます。巡検は、理化学研究所見学コース、日本薬科大学・鉄道博物館見学コース、鳩山 JAXA 地球観測センター見学・東松山サメの歯化石採集体験コースの3コースを予定しています。詳しくは、来年4月にお届けする『埼玉大会のご案内』をご覧ください。

埼玉大会は、昭和55年の第51回大会以来の開催となります。参加者の皆様にとって「学び」の多い大会となるよう内容の充実を図りながら準備をさせていただいているところです。会場は、大宮駅から22分の川越駅を経て徒歩10分程度です。是非、埼玉大会にご参加いただき、未来の理科教育やアクティブラーニングなどにつきまして、お互いの考えを交流できる実り多き機会を共有できれば幸いです。小江戸「川越」にて皆様のお越しをお待ちしております。

(3) 平成30年度 岐阜大会について(岐阜大会事務局からの報告)

岐阜大会は平成30年8月8日(水)～10日(金)の日程で、岐阜聖徳学園大学岐阜キャンパス(岐阜県岐阜市中鶉1-38)及び岐阜聖徳学園高等学校(岐阜県岐阜市中鶉1-50)を会場として開催予定です。岐阜市は、岐阜県の県庁所在地でありながら市内中心部を清流長良川が流れ、緑豊かな金華山がそびえるという自然にあふれた街です。1300年の歴史を誇る長良川鵜飼や織田信長ゆかりの岐阜城など歴史の街としても知られています。県内には関鍛冶伝承館(関市)や各務原航空宇宙博物館(各務原市)、あるいは内藤記念くすり博物館等、理科教育に携わる私たちにとって興味深いスポットが数多くあり、最終日の巡検も多彩なコースを検討しています。2月の理事会には「第89回 岐阜大会のご案内」(案)を提示したいと考えておりますので、引き続きご指導・ご支援をお願いします。

3. 企画運営部関係

(1) 研究代表者会議(研代会)の運営について

昨年まで研究代表者会議(研代会)の運営について」に、年間を通しての研究協議・研究発表に関する手順を記載していました。今年は、研究協議を活性化するため、その**手順の一部を変更する予定**です。そのため、今回の報告とは別に12月末頃に企画運営部からの連絡を事務局から発信したいと思います。その後の手順は従来通り2月の研代会にて、次年度大会の意見提示者、座長などの各都道府県分担の調整を行います。研究協議の分科会テーマと概要(案)及び研究発表会場数は、2月の全国理事会において決定することになります。また、平成29年2月12日(日)の講演会の講師を**東京学芸大学 情報処理センター准教授森本康彦様**に依頼しました。内容は、**探究学習・アクティブラーニング型授業等における評価**について中心に話をしてもらいます。なお、質疑応答等の時間を設定したいと考えていますので是非積極的にご参加ください。

(2) 石川大会のアンケートについて

石川大会では従来実施していた「全国理科教育大会・石川大会に関するアンケート」を大会本部として実施していただきました。その結果を(別添資料1)に示させていただきます。この石川大会本部大会実施のアンケートを基に大会についての課題や問題点につきましては、2月の研究代表者協議会で協議したいと思います。

4. 研究部関係

(1) 「研究紀要」と掲載論文について

10月25日(火)、研究紀要に掲載する論文について、論文審査委員会が開催され「石川大会研究発表論文(資料)集」から17点(物理8点、化学9点)、また「各支部刊行の研究誌」から1点の論文が採択されました。

研究紀要に掲載する論文は、主として全国理科教育大会の「研究発表論文集」から審査、採択します。研究紀要の論文は、学会・研究会・大学・学校などにおける研究発表論文と同等に評価を受けていますので、二重投稿とにならないような配慮が必要です。

また、「各支部刊行の研究誌」からも採択しています。各支部所属の会員に研究紀要に掲載される場合があることを周知をお願いします。「各支部刊行の研究誌」から採択された論文は、該当支部事務局に連絡しますので、本人に直接掲載の可否を問い合わせて、協会事務局にご連絡ください。

(2) 「大学入試センター試験の問題に関するアンケートのお願い・・・支部事務局宛

来年1月に実施される平成28年度大学入試センター試験(「物理基礎」及び「物理」並びに「化学基礎」及び「化学」の本試験)の問題に関するアンケートのお願い(別添資料2)とアンケート用紙及びアンケート集約用紙(別添ファイル2及び3)のファイルを添付しました。会員へ周知いただき、アンケートは各支部で対象の科目ごとに回答を取りまとめ、集計の上、電子メールでお答えいただきたくお願い申し上げます。なお、依頼文、アンケート用紙は、近日、本協会のHPからもダウンロードできるようにいたします。

5. 全国大会の課題についてのいくつかの提案・・・臨時部長会報告

日本理化学協会

平成28年10月21日(金)

川越市立川越高等学校 18:30～

平成28年10月 部長会(平成28年度臨時部長会) 次第・報告

[名誉理事大井手幸夫先生が10月1日に亡くなりました。黙とうをお願いいたします。](#)

[続いて、開式まえに、30分ほど事務局長より学術会議での発表についてお話をさせていただきたいと思います。](#)

1. 会長より

- (1) 学習指導要領の改訂について(ワーキング・グループの進行状況等)
- (2) その他

2. 議事

(1) 全国大会について

全体のあり方についての議論

(埼玉よりの提案)

- ① 科学の広場を初日にも、別会場(市立川越高校)で14:00-17:00に開催したい。
- ② 2日目の研究協議の第一分科会から第四分科会を第一部と第二部に分け、70分位で、提案グループ協議一発表-まとめのような流れで実施したい。
- ③ ICT分科会は実施しない。
- ④ 最終日の科学の広場を14:00まで延長したい。

(意見交換)

- ① ・今までの流れだと、参加者がごく少なくなる可能性があり、ブースを設定した人にかえって迷惑をかけるか。(出資企業により効果的な広報の機会を保障できるか?)
 - ・ポスターセッション(生徒等を含めた)も実施する。
 - ・いずれにせよ業者への説明は必要。
 - ・従来の科学の広場に限らず、模擬授業や実験講座などを実施する事も考えられる。
 - ・全国理事会などに参加している人以外が参加するかどうか。2日目以降に参加する人が1日目から来るなら、その人たちはいわば増加した参加者(小・中の関係者や県内の先生)となる。その人たちを対象として行えば、並行した行事として成り立つかもしれない。
- ② ・企画として試みる価値はある。
 - ・分科会の会場として、通常の教室の1.5~2倍の教室が分科会の数だけ必要なので、会場によっては実施が困難な場合もある。これからずっとこの形式でやるのではなく、**とりあえず今回限りの試みという事で実施するならよいと思う。**
 - ・基本的に第一部と第二部は同じメンバーで協議すると、協議会の進行メンバーが少なくなる。(勿論、多少の入れ替えは可能。)
- ③ ・ICT分科会をなくした場合には、**ICTでの参加を考えている方は、各科目の分科会に参加していただきたい。**というメッセージを大会案内に書く必要がある。
- ④ ・**巡検については巡検の開始を30分遅らせて、研究発表の時間を保証したい。**

まとめ 出ている意見を参考にして、県として1月の部長会までさらに検討していただきたい。

(2) 各部・委員会より今後の活動について

① 庶務部

- ・全国理事会等の案内については、メール等の発送は事務局で行うが、それぞれの全国理事会の2か月前に理事会案内の原稿を作成して事務局へ送ってほしい。
- ・全国理事会の記録は出来るだけ早く事務局へ送ってほしい。本部事務局から全国の事務局へメールする。

② 経理部

更正予算の件

更正予算を組む時期が迫っている。更正予算が本当に必要なのか。今後検討したい。

③ 研究部

① 会誌交換について

- ・試案として、2部を本部に集め、目次を研究部で研究紀要に載せる論文を選考後 PDF 化する方向で進める。集め方については今後の課題。必ずしも大会に持ち寄る必要はない。
- ・本部事務局へ郵送してもらってもよいが、一度に多数の冊子が送られてくると郵便受けがパンクする。ブロックでまとめてから宅急便で送っていただくまたは、各ブロック別に送付時期を分けて送っていただく等の工夫があると受け取り可能。(事務局)
- ・**最終案を研究部で作成し、本部事務局へ連絡する。**

② 協会賞について

- ・若い人向けの賞を新設するという意見については、実際的な進め方として、協会賞は3つまで認められるので、指導方法も含めて選考するという事を再確認したうえで選考して様子を見る。もし、良いものがあれば、当面化学2・物理1などという形で選ぶ。
- ・選考に関しては、かつて賞をもらった人でも全く違った分野での優れた研究なら受賞が認められる。また、グループでも同様である。これについては研究部長から前回の全国理事会で説明済み。

④ 企画運営部

- ① 埼玉大会の研究協議について、埼玉県と細かく打ち合わせ、埼玉県と相談してその提案を具体化し、2月12日の全国理事会に提案する。
- ② 2月理事会の講演は、東京学芸大学准教授**森本康彦先生**に依頼。内容は探求学習・アクティブラーニング型授業の評価について話していただきます。形式は一般的な講演ではなく対話型のものを予定しています。

⑤ 調査部

次のアンケートについて、考えている時点。

⑥ 広報編集部

- ・**研究紀要の目次のPDF化。**

⑦ 教育課程検討委員会

- ・**次々期の教育課程へ向けての検討。**

⑧ 教育情報委員会

- ・**研究紀要の目次のPDF化。**

(3) 全国大会について

- ① 石川大会 記念写真撮影については、短時間で終わるように打ち合わせをしたが担当者が当日来られなくなり、時間がかかることになってしまった。予定ではもっと早く終わったと考えている。しかし結果としては、表彰者や来賓の多くの方を撮影することができた。
- ② 埼玉大会（平成28年度） **会場(川越市川越高等学校)を見せていただいた。**

- ③ 岐阜大会(平成29年度) いろいろ変更する必要はわかるが、会場等の設定もあり、急な変更には不安もある。
- (4) その他
「地学」「生物」の発表も研究紀要掲載・協会賞の対象にすべきである。研究部に地学や生物の先生にも加わってもらう必要がある。

総まとめ 今回の議事に関しては、今後埼玉支部や担当部でさらに検討し、1月の部長会で検討し、2月の全国理事会で報告し、その承認を受けるものとする。

(別添資料1)

研究代表者会議（研代会）の運営について（仮・変更予定あり）

平成28年11月配布

日本理化学協会 企画運営部

1. 研究代表者会議の運営について

研究代表者会議は、全国大会を第1回とし、年3回の全国理事会の同日午後開催しております。つきましては、この文書にて、これからの研究代表者会議（研代会）の運営スケジュールを確認させていただきます。

年度末で各県の代表出席者が変更された場合（特に退職された場合）など、引継の不徹底が生じますので、この「研代会の運営について」の引き継ぎをお願い致します。

(1) 28年度第2回研代会（2月） ★H29.2.12（日）東京理科大学森戸記念館

- ア) 8月に開催された全国理科教育大会の開催県からの連絡、反省、質疑等
イ) 次年度の開催県から、日程、研究協議題等の概要の報告、検討、承認

【注】①研究協議題は開催県で作成し、常務理事会、2月研代会を経て、決定される。研究発表、研究協議の分科会数も概ね確認する。

②研究協議の内容については、開催県の案内に、協議内容のテーマ設定趣旨概略が記載されている。研究協議の意見提示者は、それを参照されたい。

ウ) 研究協議の座長、意見提示者の分担県の決定

エ) 研究発表の座長の分担県の決定

【注】①研究協議・研究発表の各座長1名、意見提示者1名は、原則開催ブロックから選出する。

②研究協議の意見提示者は2～3名とする。

③物理、化学以外の座長、意見提示者は、開催県を中心に人選をお願いしたい。

④座長、意見提示者の氏名連絡用紙は、2月の研代会で配布(ファイルを各県事務局にメールにて送付します)し、回収締め切りを4月中旬とし、5月の研代会で氏名一覧を確認する。

(この氏名連絡用紙も、「研代会の運営について」と共に確実に引き継いで下さい。)

⑤研究発表の発表助言者は、本部より全国副会長を中心に人選する。

オ) 各座長、意見提示者等に送付する印刷物原稿の内容検討

①研究協議関係

- (1)座長のご委嘱 (2)意見提示者のご委嘱
(3)意見提示者向け研究協議の原稿執筆要領
(4)研究協議の座長・意見提示者の申し合わせ事項
(5)座長、意見提示者の派遣依頼

(原則として、各校長宛依頼書・校長の場合は各教育委員会教育長宛依頼書)

②研究発表関係

- (1)座長のご委嘱
(2)発表助言者のご委嘱
(3)座長、発表助言者の派遣依頼 [宛先は、①(5)と同様]

カ) 再来年度の開催県（岐阜）から、日程等の概略説明

キ) 大会アンケートの集計結果の報告 (次回以降の開催の資料とする)

ク) 5月の研代会の協議予定の説明 (∵各県出席者が毎年替わるので)

☆年度の切り替え時期を迎え、各県代表者の異動、交替に伴う連絡不徹底により、各県の分担がはっきりしない状況や、また人選が時期的に困難な状況の県が生じます。本部の担当者には、その経緯は伝わらず、締め切り以降に確認に苦勞する実態がございます。締め切りに間に合わない場合は、必ず氏名連絡用紙の担当者連絡先にメール・電話・FAXでご連絡下さい。

28年度連絡先:東京都立清瀬高等学校・岩渕 寛

Hiroshi_Iwabuchi@education.metro.tokyo.jp TEL:042-492-3500,FAX0422-491-9491

本人直通 090(9688)9013 dormier1981@ezweb.ne.jp

※各県の研究代表者は**担当者氏名等を4月中旬までに送付して下さい。**

(2) 28年度第3回研代会 (5月) ★H29. 5. 14日) 東京理科大学森戸記念館

ア) 研究協議の座長、意見提示者の決定

イ) 研究発表の座長、発表助言者の決定

【注】研究発表の発表助言者は、理科教育大会の閉会式の代替として、各研究協議の終了時に閉会の辞を述べて頂くので、本部より各副会長、各部部長等より人選する。その際、各先生の専門に配慮して分科会に配置する。

ウ) 全体協議の司会、総合司会の決定

エ) 今年度のアンケート原稿の検討と承認

※ ア) イ) の決定資料として、研究協議、研究発表、全体協議の担当者氏名一覧を配布します。

(3) 29年度第1回研代会 (8月) ★H28. 8. 8 (火) ウェスタ川越

ア) 大会初日; 研究代表者会議

研究部、調査部、各種委員会等の時間配分は企画運営部で行う。

イ) 大会2日目; 研究発表、研究協議の各分科会の打ち合わせ会

会場設定は開催県で行い、5月配布の申し合わせ事項のプリントに日時・場所を掲載する。再度、申し合わせ事項の概略の印刷物、打ち合わせの要点の印刷物を準備し配布する。企画運営部と開催県でどちらが準備するか、事前に確認する。

(例年は開催県で準備されます。)

2. 研究代表者会議において、各部等より恒常的に報告等の行われるもの

(1) 第2回研代会 (2月)

調査部; ①今年度調査部アンケートの集計結果について

(2) 第3回研代会 (5月)

研究部; ①研究発表論文選考について

②協会賞選定について

③大学入試センター試験問題の検討結果について

調査部; ①今年度調査部アンケートの内容について

【注】 研究発表・協議の座長・意見提示者を各県で氏名決定するのは、2月に分担県が決定した後、**4月中旬**までに人選して氏名を報告してください。

物理・化学以外の分担のできる県が少なく、担当県の決定に困難が生じます。

生物・地学と合同の研究団体の県は、2月までに開催県の大会案内等を調査、事前に準備方よろしくお願ひ致します。なお、参加費・交通費等の補助はありません。各県で補助して頂くか、個人負担となります。また、座長・意見提示者・研究発表者は個人で申し込みが必要となります。

平成28年11月14日

日本理化学協会
各都道府県支部事務局御中

日本理化学協会

研究部長 大川 登喜彦

大学入試センター試験の問題に関するアンケートについて

菊薫る候、皆様にはますますご清祥のことと、お喜び申し上げます。

さて、来年1月に大学入試センター試験が実施されます。例年、大学入試センターから試験問題に関する意見を日本理化学協会に求められます。

つきましては、物理基礎、物理、化学基礎及び化学の4科目について、本試験の問題に関する会員のご意見をお寄せいただき、研究部でとりまとめて日本理化学協会の意見案を作成したいと思います。

別紙アンケート様式を会員に配布いただき、回答を都道府県支部ごとで、別添エクセルファイルに集計いただき、その結果を平成29年1月30日(月)までに下記送付先宛へお送り願います。

なお、受取り校の校務への影響及びとりまとめ作業の都合上、電子メールに集計したエクセルファイルを添付してお送りいただくようお願い申し上げます。

また、電子メールの件名は「〇〇試験問題〇〇県アンケート集計」(例 物理基礎試験問題〇〇県アンケート集計)としていただくようお願い申し上げます。

送付先

〔物理基礎及び物理〕

〒162-0052 東京都新宿区戸山3-19-1

東京都立戸山高等学校

村田 律子

〔電子メール: Ritsuko_Murata@education.metro.tokyo.jp〕 (はアンダーバーです。)

電話 03-3202-4301 ファクシミリ 03-3204-1045

〔化学基礎及び化学〕

〒162-0052 東京都新宿区戸山3-19-1

東京都立戸山高等学校

田中 義靖

〔電子メール: Yoshiyasu_Tanaka@member.metro.tokyo.jp〕 (はアンダーバーです。)

電話 03-3202-4301 ファクシミリ 03-3204-1045